

## 令和3年12月10日（金） 建設新聞

# ICT導入のきっかけに

## 地元経営者向けセミナー

東北整備局

東北地方整備局は8日、ICT地元経営者向けセミナーを仙台市のハーネル仙台で開催した。ICT導入のきっかけをつかもうと約20人が参加し、地域に根ざした企業でICT活用に先行して取り組む2社から取り組み事例などを学んだ。

初めて、東北整備局企画部の布宮明道施工企画課長が、「地域に根ざした企業からはメリットが見えないや機器が高価、対応できる技術者がいないなどを背景に、ICT活用が進んでいない。こうした皆さんも理解を深めてほしいとの思いから、このセミナーを開催した」と経緯を説明。さらに「ICT活用が進まなければ生産性向上にもつながり、人員削減や時間短縮に

がらず、ひいては若い人材も入ってこない。きょうのセミナーをICT導入のきっかけにしてほしい」とあいさつした。

この後、ICTトップランナーとして渋谷建設（山形市）の柿崎洋取締役工務管理部長と泰昌建設（同）の濱谷和取締役の2人が講義。初期費用、必要な機器といつた導入部分から、実際の活用事例などを紹介した。

また、事前に募集した質問のうち、小規模工事にICTを展開していく上での戦略について「内製が必要となる。そうすることで費用の持ち出しが無くなり、どのような規模でも対応できる」という意見は、「かつては郵送でやりとりしていた書類が、ファックス、メールと進化し、今ではクラウドを介して共有できるようになった。社会資本整備を通じて社会の安全を担保するという理念は永久に不变だが、そのための手段は可変だ。この変化に対応することができ、理念の実現につながるのでは」とアドバイスした。

